

伊東宣明 個展『フィクション / 人生で一番美しい』開催のご案内

展覧会名：伊東宣明 個展『フィクション / 人生で一番美しい』

会 期：2018年9月15日（土）～ 10月14日（日）

オープニングレセプション：9月15日（土）18:00-20:00

- ・会期中は、水・木・金・土 12-19時、日 12-17時のオープンとなります。（定休日：月火祝）
 - ・本展のオープニングレセプションを、初日の9月15日（土）に開催します。作家も在廊いたします。
- なお、レセプション前の時間帯も、通常通り12時からギャラリーはオープンいたします。

会 場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2長島ビル1F）

WAITINGROOM（東京）では、2018年9月15日（土）から10月14日（日）まで、伊東宣明の個展『フィクション / 人生で一番美しい』を開催いたします。伊東は、「身体」「生/死」「精神」といった生きるうえで避ける事のできない根源的なテーマを追求し、映像やインスタレーション作品を発表しているアーティストです。また、「フィクション」に対する独自の制作論を展開しており、フィクション・ノンフィクション・メタフィクションが交錯する手法を多く用いるのが特徴的です。当ギャラリーでは2年ぶり2度目の個展となる本展では、自身の博士論文で提言した独自の制作論「フィクションの融解」「フィクションによる割れ」を基に作られる、「フィクション」のためのロードムービーを最新作として発表します。また、20歳前後の男女約20名がカメラを前に、一様に同じようにレオナルド・ダ・ヴィンチのモナ・リザのポーズをとり、「今、私は人生で一番美しい」と1000年後の鑑賞者に向けて宣言する映像『人生で一番美しい』を、複数のモニターやタブレットに映し出すインスタレーション形式であわせて展示いたします。



『人生で一番美しい』2018年、シングルチャンネルビデオ、サウンド

作家・伊東宣明について

1981年奈良県生まれ、京都在住。2006年に京都造形芸術大学・映像舞台芸術学科・映像芸術コースを卒業、2016年に京都市立芸術大学大学院・美術研究科博士後期課程修了、博士（美術）学位を取得。近年の主な展覧会に、個展『人生で一番美しい』（同志社女子大学ギャラリー、京都、2018年）、グループ展『CANCER THE MECHANISM OF RESEMBLING』（EUKARYOTE、東京、2018年）、個展『アートと芸術家』（WAITINGROOM、東京、2016年）、グループ展『S-HOUSEミュージアム開館記念展』（S-HOUSEミュージアム、岡山、2016年より）、個展『アート』（愛知県美術館 APMoA Project ARCH、名古屋、2015年）、グループ展『GRAVEDAD CERO』（Matadero Madrid、マドリード・スペイン、2015年）、『牛窓・亜細亜芸術交流祭 - 瀬戸内市美術館』（牛窓シーサイドホール、岡山、2014年）、グループ展『Me'tis -戦う美術-』（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都、2012年）、グループ展『レゾナンス 共鳴 人と響き合うアート』（サントリーミュージアム、大阪、2010年）など国内外多数。

↓<次頁> 展覧会について

作家ステートメント

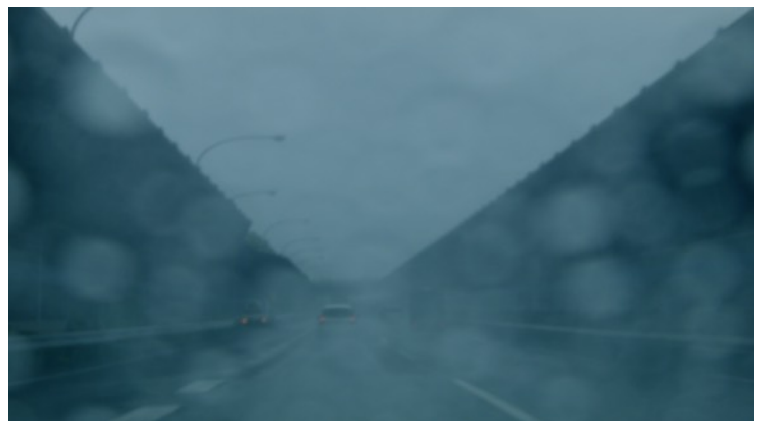
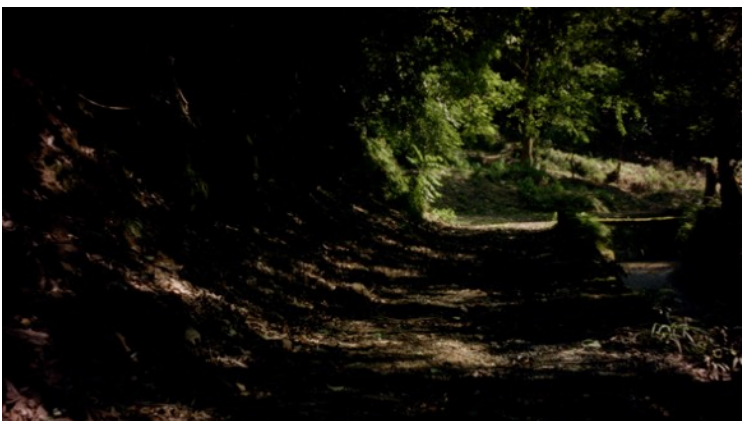
「現実」と「フィクション」は二項対立的な概念ではない。現実という素材を元に常に「フィクション」が作られる。「フィクションの融解」とは、基盤となるフィクションに違う形式のフィクションが入ると、それらのフィクションの形式の判別が困難になる事を指す。「フィクションによる割れ」とは、「フィクションの融解」によって場合により発生、表現メディアを超えて、フィクションが現実の流れだしてくる事を指す。その際、フィクションの現実世界への流入が発生する。「フィクションによる割れ」が発生した際、コップから漏れた水に手が触れる事と同様に、観客は驚き、笑い、怒り、恐怖、感動、不快、苛立等、同じ作品にでも、観客にとって様々な強い感情を起こす。それはそれまでのストーリーが生み出していた感情と同様の場合もあり、別種の場合もある。しかし、共通しているのはそれらが「強い」感情だという事である。「フィクションによる割れ」が起きた「フィクション」は、厳密には「フィクション」ではないものとなる。かつて「フィクション」だったものは、直視が難しく、直接抱えて生きる事が出来ない異形のものへと変化し、世に放たれるのである。

伊東宣明

それを「フィクション」とし、そして壊す

伊東が2016年に京都市立芸術大学大学院美術研究科 メディア・アート専攻（博士後期課程）修了時に発表した博士論文は、自身の処女作から今に至るまで多く使用されてきた手法に「フィクションの融解」と「フィクションによる割れ」という名前をつけ、表現メディアとしては映画を例に論じ、最終的には自身の今までの作品を軸に実証を行うというものでした。その最終章では、自身が大学院修了後に何年か正社員として勤務した葬儀会社での経験が綴られており、私たちが死を「死」として受け入れるために、死を「フィクション」化するための儀式が葬儀なのではないか、という仮定をしています。伊東がなぜ「フィクション」にこだわるのか。それは、「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」といった近代以降の美術家として、あるいは人間として普遍的であり根源的ともいえる関心事から発している、と伊東は言います。この世に生を受け、そして死を迎えるまで、私たちは生きていく中で一体何を感じ、何を目的に、どこに向かっていこうとしているのか、その問いを伊東は「フィクション」というフレームに一度当てはめ、そして壊すことによって、観客自身に強く実感させることを作品を通して行っているのです。

作家として今まで考え体現してきたことを、一つの論考としてまとめたのが自身の博士論文であり、その中で実証した内容をさらに映像作品として再度立ち上がらせるという意欲作が、本展で発表される新作映像『フィクション』です。そして、相互に共鳴する作品として、『フィクション』で用いられる理論で作られている『人生で一番美しい』を同時展示いたします。一つの空間で存分に発揮される伊東ワールドを、ぜひご高覧下さい。



伊東 宣明

1981年 奈良県生まれ
現在は京都を拠点に活動中

学歴

2016年 京都市立芸術大学大学院美術研究科 メディア・アート専攻（博士後期課程）修了・博士(美術) 学位取得
2009年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 絵画(造形構想)専攻（博士前期課程）修了
2006年 京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 映像芸術コース 卒業

個展

2018
人生で一番美しい - 同志社女子大学ギャラリー（京都）

2017
生きている／生きていない 2012-2017 - ギャラリー16（京都）

2016
アートと芸術家 - WAITINGROOM（東京）

2015
動物（習作） - アートスペース ゼロワン（大阪）
アート（AM Ver.） - アンテナメディア（京都）
アート - 愛知県美術館（愛知）

2014
0099 - 海岸通ギャラリー・CASO（大阪）※Itoh+Bak名義による個展
芸術家と預言者 - HAGISO（東京）

2013
芸術家 - アンテナメディア（京都）

2011
預言者 - 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）

2010
回想の遺体 - 立体ギャラリー射手座（京都）

2009
1+1=1 - 立体ギャラリー射手座（京都）
短編 - 海岸通ギャラリー・CASO（大阪）

2008
1+1=1 - 海岸通ギャラリー・CASO（大阪）
幻視者/質問者と演者 - ギャラリー16（京都）

2007
BODY SOAP - 立体ギャラリー射手座（京都）

2004
delusive skin - 立体ギャラリー射手座（京都）

主なグループ展

2018
越境するミュージアム - クシノテラス（広島）、S-HOUSEミュージアム（岡山）
CANCER「THE MECHANISM OF RESEMBLING」 - EUKARYOTE（東京）



個展『人生で一番美しい』2018年、展覧会風景（同志社女子大学ギャラリー / 京都）



個展『アートと芸術家』2016年、展覧会風景（WAITINGROOM / 東京）撮影：松尾宇人

主なグループ展（続き）

2017

NEWSPACE - WAITINGROOM (東京)

Exchange of the landscapes Project - 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー、STANDING PINEの2会場 (愛知)

船/橋 渡す FUNAHASHI WATASU - 奈良県立大学 (奈良)

第3回牛窓・亜細亜芸術交流祭 Ushimado Asia Triennale2017 - 岡山県瀬戸内市尻海地区 (岡山)

Melting Point 2 - MEM (東京)

2016

S-HOUSEミュージアム開館記念展 - S-HOUSEミュージアム (岡山)

2015

GRAVEDAD CERO - Matadero Madrid (マドリード・スペイン)

学園前アートウィーク 2015 - 浅沼記念館 (奈良)

Still moving @KCUA - 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (京都)

2014

牛窓・亜細亜芸術交流祭 - 瀬戸内市美術館・牛窓シーサイドホール (岡山)

Hairy Soy Source, Soap and Ten Statements for an Artist - MIACA (香港)

egØ - 「主体」を問い直す - punto (京都)

2013

超京都2013 - 平成の京町家モデル住宅展示場KYOMO (京都)

ニュー・ブランシュ KYOTO2013 - 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (京都)

岐阜 おおがきビエンナーレ2013 - 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] (岐阜)

美意識の変容 - 大阪市中央公会堂 (大阪) ※シンポジウムに伴うグループ展

2012

Transmit Program#3 《Metis -戦う美術-》 - 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (京都)

2011

DONATIONS! 東日本大震災被災地のために - GURA (京都)

2010

わくわくKYOTO - 元立誠小学校 (京都)

スモールミュージアム2010 - ギャラリー揺 (京都)

レゾナンス 共鳴 人と響き合うアート - サントリーミュージアム (大阪)

2009

NONAME -KYOTO - 旧立誠小学校 (京都)

NONAME -YOKOHAMA - 横浜ZAIM (神奈川)

京都市立芸術大学制作展 第3会場 -学内展- - 京都市立芸術大学構内 (京都)

2008

芸術系大学作品展2008~ART UNIV.2008~ - 元立誠小学校 (京都)

京都市立芸術大学制作展 第3会場 -学内展- - 京都市立芸術大学構内 (京都)

2007

第10回岡本太郎現代芸術賞 (TARO賞) - 川崎市岡本太郎美術館 (神奈川)

四条ストリートギャラリー - 中央三井信託銀行 (京都)

2006

S T A I R S - 海岸通ギャラリー・CASO (大阪)

映像芸術コース卒業制作展 - ギャラリーRAKU (京都)

2005

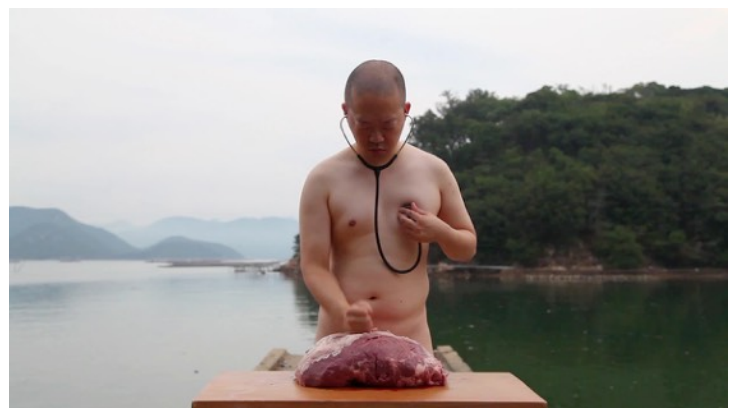
F R A M E PLUS Hisao MATSUURA - 海岸通ギャラリー・CASO (大阪)

2004

京都アートアニュアル - 京都造形芸術大学・高原校舎 (京都)



『アート (スペインVer.)』2015年
シングルチャンネルビデオ、サウンド、10min.5sec.



『生きている/生きていない (2014.8/牛窓)』2014年
シングルチャンネルビデオ、サウンド、9min.32sec.

↓ <次頁> 作家略歴 (つづき)

アワード

2012年 群馬青年ビエンナーレ2012 入選
2009年 京都市立芸術大学制作展 奨励賞
2007年 第10回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）入選
1999年 （小説）文学界新人賞 最終選考候補作

アーティスト・イン・レジデンス

2015年 トーキョーワンダーサイト 平成27年度二国間交流事業プログラム（マドリード・スペイン）

展覧会図録

APMoA Project, ARCH vol.13 伊東宣明『アート』ブローチャー、2015年2月、愛知県美術館
『岐阜おおがきビエンナーレ2013<カタログ>』2015年1月、情報科学芸術大学院大学[IAMAS]
『document ego』2014年4月、ego展記録冊子委員会
『京芸Transmit Program #3 Metis - 戦う美術 -』2012年5月15日、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
『レゾナンス 共鳴 人と響き合うアート』2010年4月、サントリーミュージアム[天保山]

掲載記事

能勢陽子「APMoA Project, ARCH 5年の奇跡」、AAC Vol.93、2017年9月号、p.5、愛知芸術文化センター
林央子「G's ART 林央子のWhat's Art?」、『GINZA』Issue235、2017年1月号、p.180、マガジンハウス
「MEETING THE ARTIST/伊東宣明」、web版『美術手帖』、2016年11月24日、美術出版社
「MEETING THE ARTIST/伊東宣明」、『美術手帖』1046号、2016年12月号、ARTNAVI内 p9、美術出版社
「TO DO LIST/伊東宣明「アートと芸術家」@WAITINGROOM」、『POPEYE』Issue836、2016年12月号、p188、マガジンハウス
小吹隆文「学園前アートウィーク」レビュー、Lmaga.jp、2015年11月11日、<http://lmaga.jp/blog/news/2015/11/gakuenmaeart2015.html>
天野一夫、APMoA Project, ARCH Vol. 13 「アート」レビュー、REAR35号、2015年9月
小吹隆文「アート」(アンテナ・メディア)レビュー、artscape、2015年6月1日、http://artscape.jp/report/review/10111280_1735.html
中井康之「アート」(愛知県美術館)レビュー、artscape、2015年4月15日、http://artscape.jp/report/curator/10109252_1634.html
What's up in Japan, Seoul Art Guide vol.159、2015年3月
「執筆者が選ぶ年間ベスト3」、京都新聞、2013年12月28日
吉田モモコ「伊東宣明《芸術家》」(アンテナ・メディア)レビュー、HAPS Exhibition Review、2013年11月5日、http://haps-kyoto.com/haps-press/exhibition_review/review_14/
小吹隆文「伊東宣明《芸術家》」(アンテナ・メディア)レビュー、artscape、2013年7月1日、http://artscape.jp/report/review/10088825_1735.html
中井康之「伊東宣明《芸術家》」(アンテナ・メディア)レビュー、artscape、2013年6月15日、http://artscape.jp/report/curator/10088446_1634.html
小吹隆文「人間の制度と関係を問う 伊東宣明展」、京都新聞、2013年5月25日
高嶋慈「Mètis -戦う美術-」レビュー、HAPS Exhibition Review、2013年2月4日、http://haps-kyoto.com/haps-press/exhibition_review/review_003/
小吹隆文「<レゾナンス 共鳴>その4 伊東宣明さん（出品作家）インタビュー」、アートのこぶみ、2010年4月24日、<http://blog.livedoor.jp/artkobujime/archives/1361419.html>
高嶋慈「もう一つの「共鳴」 - 対話と交感の場が開かれるとき」レビュー、PEELER、2010年4月、http://www.peeler.jp/review/1006osaka_2/index.html
「尿を素材にせっけん、身体感問う 中京で大学院生が展示」、京都新聞、2007年4月25日

パブリックコレクション

S-HOUSEミュージアム、岡山

アーティストウェブサイト

<http://nobuakiitoh.com>

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM (代表：芦川朋子)

住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日：月火祝

Tel：03-6304-1877 Eメール：info@waitingroom.jp

Web：http://waitingroom.jp